

リフレクションカード 2016年度前期

学科	生活創造学科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学Ⅰ	1	前期	必修	はい	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義は、キリスト教の必須科目として「感恩奉仕の土台」を身につけることが目的なので、授業ではキリスト教の基礎を体験的に習得できるよう、祈りや自ら聖書を読むこと、紙芝居や絵本の読み聞かせ、ディスカッションなどを取り入れた。また、授業以外のチャペルの参加や、教会訪問などを評価に取り入れ、授業外でキリスト教に触れる体験の機会を設けた。 毎回の授業の最後に記入するポートフォリオでの学びの確認だけでなく、昨年度より導入したBible Noteを活用し、チャペルの応答カードをBible Noteに添付して提出することによって、チャペルでの体験的な学びの全体像をみることができるようになった。 建学の精神の土台を習得していくため、日常的に聖書を読む事を推奨し、授業外で聖書を読んだ時のコメントをBibleNoteに記入することによって、予習・復習の課題を具体的に提示している。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの結果より、知識理解に関しては3.6ポイントであった。トータルの成績の平均値は約80%以上。チャペルの出席率約80%以上とコメントカードの内容、教会訪問の出席率約90%以上と感想文の内容から、感恩奉仕の価値観を学び、聖書の視点を知り、キリスト教の源泉に触れるという、教育目標はやや達成されたと言えます。キリスト教学Ⅰはキリスト教の導入なので、今後、キリスト教学Ⅱの中で、Ⅰで学んだ知識をもとに、発展させていくような展開が必要とされる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は本学の要となるキリスト教を学ぶ「必修」科目である。しかし、初めから興味を持って受講する学生はわずかである。キリスト教に全く興味のない学生も受講しているため、動機付けに工夫が必要であるが、全体的に一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 感恩奉仕の価値観を学び、聖書の視点を知り、キリスト教の源泉に触れるという、行動目標に沿い、学問としての聖書の講義とアクティブラーニングの学びの他、チャペル出席、教会出席、等を行い、授業内で学ぶ事の出来ないキリスト教の源泉に触れるなど、内容的には妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年より導入したBible Note活用を、キリスト教学Ⅱへの橋渡し役として推奨した。今年度は昨年の反省を踏まえ、キリスト教学Ⅱに引き継いで使用するものとして、基礎知識を十分に記述すること、チャペルのコメントカードを貼付け、自らの学びを見直すことなどを、徹底して指導した。本講義は、興味のない学生にも興味をもってもらうことが重要である。授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.2であったが、引き続き、アクティブラーニングの手法を工夫しつつ、学生たちが自ら聖書を開いて、日常生活に応用できるような仕組みを作りたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	必修科目の位置づけであり、本学の要となる「感恩奉仕」の土台を学ぶ科目であるため、元々キリスト教に関心や興味のない学生たちにも主体的に学習してもらうための工夫が必要である。受け身的に知識を得るだけでなく、学生が興味を抱いたテーマについて取り上げてディスカッションを行うことや、絵本・紙芝居の読み聞かせを学生自らが実践することなどを入れ、授業を造り上げる一員としての自覚を養うように促している。授業の最後に記入して振り返りを行うポートフォリオやチャペル出席・教会訪問に加え、それらの学びをひとつのノートに記録できるよう、昨年からはBible Noteの作成を始めた。今年の新しい試みは、このNoteに、毎回のチャペルで配布される「チャペル応答カード」を貼付けるように指導したことであり、これによって、前期のチャペルでの学びの全体像が見えるようになった。今後も、更なるBible Noteの活用を工夫し、キリスト教学の学びを多角的に深められるような指導をしていきたいと考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	生活創造学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
心理学Ⅰ	1	前期	選択	はい	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生との対話ある講義を心掛けたいと準備した。講義の導入に当たり学生の興味・関心のある内容を話すために、毎講義の最後に本時の講義に対する感想や質問を書いてもらうこと死している。本時終了後にその内容を精査して回答や問題定義を考えて講義に臨んだ。このことでスムーズに講義の内容には入れた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	講義ちゅうの私語がないことは特筆に値する。講義への集中度を示している。講義に対する評価は一定の成功を示していると思われる。それは以下の3点においてである。①成績評価のほとんどが平均以上の結果を出している。②自由記述の欄に、「ためになり、わかりやすく、面白い講義であった」と講義者の狙い通りのコメントが見られた。③学生の出席状況からみて、欠席傾向のあるものを除けば、95パーセント以上の学生が講義15回の90パーセント以上の頻度で参加していることは学習意欲の高さが示唆される。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的な妥当性については、受講動機や自由記述を概観すると「心理学的なことに興味を持っている」「人間行動の不思議を知りたい」「人の心を理解するために必要」など心理的な知識やそれを応用したいとの意欲が伺われるので、その成果から勘案してこのカリキュラムマップと講義内容との整合性は妥当であると思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方と改善課題については大きな反省がある。コミュニケーションの話を学生にすることが多いが、自分の授業が対話式のコミュニケーションを図っているかという難しい。どちらかというと一方に偏りがちであった。これは質問を投げかけてもなかなかそれに応える学生がいないことにも起因しているが。それでもやはりツウエイの授業を実現する努力をはかりたいと思う。今後の大きな改善課題である。努力を継続したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	少人数の講義に戸惑うことも多かった。達成状況の総括的評価は3段階A, B, C評価のBの上ではなかろうか。授業はアートだと思う。授業者の体調、意欲。内容の鮮度。それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができない場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。おいしい料理を食べたときと同じ顔になると経験的に思っている。本年度はその数においてやはりBの上であった。努力を重ねたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	生活創造学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
文学 I	1	前期	選択	はい	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	まず、「文学」の意義を明確にすることからスタートし、その概要ついて解明するにあたって、次の工夫を試みている。例えば、生活創造学科の学生が日頃、他の講義で学ぶ内容に接点や関連を持たせながら講義を進めている。他の講義と自身の目指す専門性の接点が日常生活の中で絶妙なバランスをもって学びの域に達するように、である。 文学を通して、もう一度自分の生きてきた道をフィードバックすることにより、将来の職に就くために求められる大切な知識、意義、を理解させるべく、基礎能力を養うことに力を注いだ。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	15回の講義内容において、一回、一回の学生の反応は決して一律ではなく、ムラが見受けられる。関心のある項目については80%の学生が熱心に耳を傾けているが、ともすれば科学的実証性のあるものではないので、内的鑑賞を求められるとたちまちにして、表現法に困る学生も目立ってくるが、それは同時に学生自身の自己評価にもつながるもので、不得意部分を意識して向上することにもつながってゆくように思われる。 感想文などの提出、図書館の利用によって、活字に触れて、学生の内的精神性を高めることに力を注いだ。時間を要したが、実力アップの方法を習得した学生は少しずつ力を付けていったように感じる。学習の方法及び、読書の味わい方のコツを昨年に増して講義に取り入れているので、昨年よりは進化していると思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目の位置づけからみた内容的妥当性については、70%は活かされていると思われる。しかしながら、あくまでも一般教養科目であるので、専門科目との接点には今以上、今後も気を付けなければならないと感じている。例えば、言葉の認識と言語的フィルターの関係性・ベストセラー小説の意味するもの・文学と職業観・文学と愛・・・など生きてゆくことの諸問題について考察し、それが具体的に自身とどう関係するかを、学生自身の言葉で表現できる実力が生まれてこそ、位置づけの完成と考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

上質な文学に触れさせるためにも今以上に様々な問題提起をして、図書館を活用するべく促してゆきたいと考えている。授業中、特に1年生の熱心さ、活発さは年々上昇しているので、授業の進め方は、講義形式にしたいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

総括的評価として（達成状況の）は、75%程度である。今後は学生一人ひとりの実力が克明に評価できる方法を試案したいと考えている。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	生活創造学科
氏名	小池 順一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
法学	2	前期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は、専門科目ではなく、受講生の知識量は多くはないと思われた。しかし、興味は持っていたようなので、日常生活に関する具体的な事例を挙げて、授業を展開した。併せて、受講生が少数であったので、直接、質問をし、回答を促すことで授業への参加意識を高めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価を見ると、知識を新たに得ることができたかについては、3、7。事象を理解する視点や考え方を得ることができたかについては、3、5という評価であったから。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機としては、単に単位取得のためとする者が多かったが、学習到達度の自己評価を見ると、自分なりの目標を達成したかについては、3、3。新たに知識を取得できたかについては、3、7。という点数であったので、内容的妥当性には、問題ないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

具体的な事例を挙げて授業を進行した点は良かった。直接、学生に興味ある問題はないか等も質問した。ただ、もう少し予習、復習をするように授業運営を改善したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

少人数の授業であったので、双方向の授業ができたと思う。今後の課題として、引き続き自学自習の習慣が付くように学生を指導したい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	生活創造学科
氏名	清末 達人

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生理学	1	前期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は、細胞の機能から始まって、生命体維持の基本となる主要臓器の働きについて学ぶ学問であるが、最初に対人関係の基礎となる人間の思考に焦点をあてて、神経系の働きについて学習した。特に、対象を認識するための感覚器の働き、中枢での情報の統合、運動神経による骨格筋の制御の仕組みなどに重点をおいた授業計画を立案し、日常生活における神経系や筋肉系についての基本的な事柄について理解が深まるように配慮した。その後、高等学校で学んだ、生物基礎の知識とも連動する血液や腎臓の機能についての学習に移った。毎回の学習項目に関連深いビデオ映像を鑑賞することで、生理学に関する興味を持ってもらえるように努めるなど、学生の興味が途切れないように配慮したつもりである。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートにおいて、「自分なりの目標を達成したか」という問いに対して、全員が「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な回答を行っている。また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができたか」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができたか」という問いに対しても肯定的回答が多く、この科目で意図した教育目標は、ほぼ達成できたのではないかと考えられる。 DVDを鑑賞して、その感想文を提出してもらい、成績評価を行ったが、多くの学生がDVDのテーマに興味をひかれ真面目に感想文に取り組んだことがうかがわれた。自由意見に、「DVDなどで分かりやすく説明してくれた」ので良かったという意見があったのは心強く感じた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業動機で一番多かったのは、単位数の確保という点であり、試験を実施しない科目であるから受講したという面が大きかったのかなと感じている。生活創造学科で生理学を学ぶ動機としては、医学の初歩を理解して病気と健康についての基本的な考え方を身に着けるというものであってほしいという教える立場からの希望と、必ずしもそぐわなかったのではと反省している。もっと、学生の持っている生の情緒の中に直接入り込んで、結果的に何かが身につくというやり方もあるのかも知れない。今後の課題としたい。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

教師の側がすべてお膳立てして知識を植え付けるというやり方のほかに、一部にPBLのやり方を取り入れ、自分で課題を解決する形式の授業にしたい。現状では、学生は自分で考えるというよりも、受け身に終始していることが、授業の課題以外に学習にとりくんでいないという授業評価からわかる。次年度からは、授業方法の見直しを行いたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

限られた授業時間内に、人体のすべての臓器についての基本的事項を講義することは不可能であり、学生が興味を持っていると思われる事柄をなるべく取り上げるように努めたが、すべての内容が、必ずしも受講生にとって興味を引く事柄ではなかったかも知れない。8人中4人が、自分の専門分野の課題とあまり関係がないと評価しているのは残念な点である。今後は、学生のニーズをできるだけ反映した授業内容にしたいと考えている。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	生活創造学科
氏名	領木 信雄

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
コンピュータ・サイエンスⅠ	1	前期	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1年生前期の、コンピュータやネットワークを利用するにあたって利用者として知っておくべき事柄について扱う科目であるので、教科書的な説明に留まらないよう、話題になった事件・現在販売されている製品なども題材に身近な話題になるよう心掛けた。広く知られている実技の検定試験でも知識を問われるものがあり、そこで問われるような内容も関連して扱った。毎回シートを配布して質問やコメントを回収し、授業が一方向的にならないようにした。授業で扱った範囲外の個人的な疑問を積極的に記入する学生が今年度は多く、いくつかは授業の中で話題に取り上げた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は81点、再試験となったのは1名であった。知識を問う試験とレポート課題から評価した。持ち込み可としたにも関わらず試験ができていない学生が見られたので、途中での理解の確認をこまめに行うようにしたい。課題はほとんどの学生が提示した条件を全て満たすように出来ていた。 学生による到達度自己評価においては、ほとんどの項目において多くが「まあまあそうだと思う」～「かなりそうだと思う」を選んでおり、目標達成状況は良いと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1. CP・カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は一般教育科目の選択科目である。身につけるべき「短期大学士としての教養」を扱う科目として、また、カリキュラムツリーにおいて「基礎」の段階を担当する科目として、内容的に妥当であるとする。 2. DP・行動目標からみでの内容的妥当性 特に「情報に関する基礎的な知識と理解を有している」「社会で自立して働き生活していくために必要な基礎的な実務能力」について、内容的に妥当であるとする。 3. まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均値が2.3 であった。授業中に内容を振り返り自分で問題の形に落とし込む機会を何度かつくったが、うまく活かせていない学生が見られた。
また、復習を行なっている学生が多くないことが分かった。復習すべきポイントを分かりやすく伝えるよう工夫したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

知識を問う試験で得点の低い学生が数名見られたが、それ以外については達成状況は概ね良いと言える。新しい事例をできるだけ取り入れられるように心掛けたい。また、復習すべきポイントを分かりやすく示すなどして対処したい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	生活創造学科
氏名	領木 信雄

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
コンピュータ・サイエンスⅡ	2	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	コンピュータやネットワークの操作ではなく仕組みについて多く扱う科目であるので、単に解説を追うだけでなく、学生が実際に手を動かして計算したり手順を確認したりして試みることで理解へつなげるようにした。また、それが具体的にどのように利用されているかについても実例を多く挙げて紹介し、理論だけにとどまらないよう、理論と実際の結びつきがわかるよう工夫した。毎回シートを配布して質問やコメントを回収し、授業が一方的にならないようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は87点、再試験となったのは1名であった。毎回の小レポートと期末のレポートから評価した。ほとんどの学生が全てのレポートを提出していた。 学生による到達度自己評価においては、すべての項目で「まあまあそうだと思う」以上を全員が選択していた。2年生の授業ということもあり、パソコンの具体的な利用についてではなくやや抽象度の高い仕組みの理解を問う内容となっているので、抽象的な仕組みと具体的な利用例がつながって理解できるように一層工夫していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1. CP・カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は一般教育科目の選択科目である。身につけるべき「短期大学士としての教養」を扱う科目として、また、カリキュラムツリーにおいて「応用」の段階を担当する科目として、内容的に妥当であるとする。 2. DP・行動目標からみた内容的妥当性 特に「情報に関する基礎的な知識と理解を有している」「社会で自立して働き生活していくために必要な基礎的な実務能力」について、内容的に妥当であるとする。 3. まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均値が3.3であった。課題への取り組みは毎回あるので、グループワークなど、それについて話し合い・発表などの機会を設けるようにしたい。 授業の質評価において「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値が3.3であった。毎回シートを配布し授業へのコメントや疑問点を書いて提出してもらっているため、それをより活用してもらえようようにしたい。 また、復習を行なっている学生が多くないことが分かった。復習すべきポイントを分かりやすく伝えるよう工夫したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	レポートの提出状況も全体的に良好で、平均点も高かった。内容の位置づけ・意味づけなどに工夫をし、また、復習しやすいようにして、疑問点を解決できるようにしてゆきたい。 教科書に沿って進めたが、より広いテーマを扱えるよう、取捨選択する必要がある。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	生活創造学科
氏名	十時 康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語 I	1	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を初回の授業日にも直接尋ねてみたが、「積極的」理由により受講している学生はあまりいない。学生たちの受講理由の例として「他の言語よりも簡単そう」などがある。短大の授業は初めてであったため、学生の英語力に関してはあまり情報がない状態でのスタートであった。したがって初級者用に授業計画を立て、場合によっては難易度の高いタスクを課すなどして対応するようにした。 実際授業を数回行ってみて感じたのは、英語力にかなりのばらつきがあるということ、動機付けの面でもかなりの差があることが認められた。そのためグループワーク形式で授業を進めることとし、英語力の高い学生が他のメンバーに「教える」機会を設けた。ある程度基礎的な英語力がある学生は「教える」という一段高いタスクに挑むこととなり、「教えられる」学生は、教員からではなく同じ学科の友人の「普段」とおりの言葉での解説に理解を促進させているようだった。無論、学生の「教え」方に問題がある場合は、教員が訂正した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	20名弱と少人数のクラスであったことと、グループワークによる隔週の課題のためか出席率もとてもよく、グループワークでの課題の提出もほぼ毎回完璧であった。グループワークでは、図解、文法解説、音読、追加資料などの係ごとに課題を提出してもらったが、どの課題もよくできたものであった。 期末試験の平均点は75.8点で、小テストの平均点は21.3点(30点満点)であった。小テストでできなかったところは、期末試験で必ずできるようにしておこう、と指示をして、小テストは期末試験と連動させ同じ形式の問題で行った。このことが授業全体に一貫性をもたらしたのではないかと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は選択科目であるものの、学生の受講理由は決して積極的なものではなかった。その点で学生を動機付けに難航したのは否めない。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

英語力に極端に差が見られるので、授業進度や難易度を教室全体で一元化するのではなく、各受講生がその英語力に適したスピードで進められるような仕組み、カリキュラムデザインを心がける。今あるアイデアとしては、授業進度の複線化である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

全体を通して到達度をもう少し上げていきたい。最低限クリアしてほしいラインを明確にして、そこをクリアした学生はプラスアルファの課題を課すなどして、英語力の比較的高い学生の達成感にも配慮していきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	生活創造学科
氏名	金 銀英

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングル I	1	前期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	○第二外国語として初級レベルの韓国語力をつけることを目標としている。開講後に行ったアンケートで（学校で実施する授業評価ではなく、別個に実施）「K-popが好きだから」や「韓国旅行の際便利そう」などの積極性が見られる受講動機がある中「単位が欲しいから」「英語が苦手だから」との返答が多数あるなど、学生間の温度差があることが分かった。 ○受講姿勢に差がある受講生全員が興味と持つように“楽しい”授業を目指した。学生が興味を持ちそうな韓国事情や毎年好評のK-popなどを授業に取り入れ最後の授業まで韓国語への興味が持続するように勤めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績平均は80.2で理想的レベルに達することができ、再試験対象者も出なかった。 授業評価における到達度自己評価でも「知識を新たに得ることができた」や「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の設問に高い満足度が見られ、講義が重点を置いている点と学生の満足とが一致する結果が得られた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 試験の結果で見られるように第二外国語として目標としていた成果を挙げられたので、内容的に妥当性があると考えられる。 DP 授業中、学生達から受けた印象もさることながら、到達度自己評価でも高い評価を得ているので妥当性があると考えられる。 まとめ 以上のことから内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

初級という授業の特徴上、学生間やり取りができないが、韓国語発表の機会や会話の機会を増やしてコミュニケーションが取れるように努めた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

第二外国語として学習歴のない学生を対象に、基本となる話す・聞く・書く・読む力をつけることが目標だった。その目標を達成できたことにより次の「ハングルⅡ」に進むに不足しない実力がついたと思われる。そして語学以外に「韓国に行きたい!」などと“韓国”そのものに興味を持つ学生が増えて、狙って以上の成果を挙げられた。来年度も引き続き学生と関連のある韓国の話題を取り入れながらよい成果を挙げたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	生活創造学科
氏名	桑野 嘉津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ボランティア論	2	前期	必修	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は必修であるがボランティアについて学ぶ意義を理解できないまま受講している学生が多く、学ぶことへの動機づけが大きな課題である。今回の受講動機をみると全ての学生が「必修科目である」とのみ回答していたことはこれを示唆するものであった。できるだけ身近な事例を挙げて関心を引きつけるようにした。 ②授業の最初に学習準備状況の確認アンケートを行った。ほとんどの学生がこれまでに学校などでボランティア体験をしているが、社会情勢への関心については85%の学生は新聞をほとんど読んでおらず関心が薄かったため、社会の情勢や地域の問題について関心を持つためにボランティアに関する記事を探し感想を書くことを課題とした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は77.8点(±5.0)であり全員が標準的レベルに達した。理想的レベル(80点以上)に達したものは12名であった。 身近なボランティア活動について調べ資料を作りプレゼンテーションをするという課題については全員が達成、ボランティアに関する記事を探し感想を書いて提出するという課題、各自でボランティアを实践し報告書を提出する課題についても85%が達成し、レポートの内容についても全員が標準レベルに達した。 目標別に見ると思考判断では口頭発表やレポート記述に自分なりの考えをまとめることが出来ていたが、独自性や独創性のあるものは少なかった。 意欲関心についてはそれぞれの課題について全員あるいは高い割合で達成したこと、また要求された量以上の課題を提出した学生が8名いたことは、受講動機が「関心のある内容である」の回答はなかったことから考え合わせると評価できるのではないかと考える。 態度についてはそれぞれの課題を達成したという点では評価できるが、ボランティアに求められる「自発性」という点では十分ではなかった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は必修であるが授業準備の欄で指摘したように動機付けに苦慮する面があるが、課題を工夫し、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 それぞれの課題について高い割合で達成したことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

ボランティアの学びは技術向上や資格習得など学生の成長に直結するものではないので動機付けに苦慮する面があるが、日頃の学生生活の課題と結びつけることで身近な問題としてとらえることができるようにした。
ボランティア活動について調べ資料を作る課題や記事の感想を書く課題のために、授業中に新聞記事の資料を配布したり全員でインターネットを閲覧したりして、図書館での新聞閲覧やインターネット等の利用を促した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生にとってすぐに役立つ学びにならなくとも、現在の学びが未来を豊かにするための種をまくことだと長い目で捉えている。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	生活創造学科
氏名	加来 卯子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ファッションと生活	2	前期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	2年前期の選択科目である。 被服行動と個人、社会、文化との関連を具体的事例をもとに理解し考察する授業である。身近に存在するファッションを改めて見直し、関心が持てるよう授業を進めた。 オリエンテーションにて授業への心構えや全体的な説明を行った。 レポートや提出物を通して、学生と教員相互の関わりを構築した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	少人数による授業であるためか受講者の多くが標準的レベルに達し、理想的レベル(概ね80点以上)に達したものは半数以上であった。オリエンテーションにおいて、授業の概要、評価について説明した。 知識理解、技能表現については、概ね一定の基準に達していることが伺える。到達度自己評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」では、肯定的な回答が比較的多くみられた。新しいカリキュラムを念頭に置き、本年度の成果を反映するよう、次年度に向けて検討したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門選択科目」であり、本学科で学びを進めるための応用科目である。生活を営むうえで必要な知識を習得し、考え、まとめる力が必要である。各自の着衣についてのレポート提出により、関心の高さが徐々に増していくことが感じられた。課題に取り組むことにより、自己のファッションを様々な視点からとらえるため、内容には妥当であったと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業はパワーポイントによる説明の他、動画等を用いて行った。

また、新規の用語や図を調べる際に、コンピュータによる検索を行った。

与えられた課題について、自ら考え進める姿勢を養うことができるよう、授業の進め方に工夫が必要である。

新カリキュラムにおいて、受講生の増加が予想されるため指導法を検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

専門応用科目にあたる位置づけから、知識理解については概ね達成できたが、少数の学生については課題を残している面も見受けられる。本科目は学生自身に関する身近な課題も多く含まれているため、より多くの学生が興味を持ち、考えを深められるよう授業の流れについて再度検討したい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	生活創造学科
氏名	加来 卯子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎演習	1	前期	必修	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1年前期の必修科目である。短期大学部生活創造学科で学生生活を始めるにあたり、適応をはかるとともに広い視野で物事を考える入口の授業として授業内容に関心が持てるよう授業を進めた。 オリエンテーションにて授業への心構えや全体的な説明を行った。学科の教員3名で担当し、各分野から設定されたテーマに基づいて授業を展開した。各回のレポートを通して、学生と教員相互の関わりを構築した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者の多くが標準的レベルに達し、理想的レベル(概ね80点以上)に達したものは半数以上であった。オリエンテーションにおいて、授業の受け方、レポートの書き方等を説明した。知識理解、技能表現、いずれの評価についても、各回担当教員に委ねられているため、詳細な分析は難しいが、最終評価では概ね一定の基準に達していることが伺える。到達度自己評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た」では、平均値3.5、中央値3.0であった。その他の評価は平均値3.0～3.3、中央値3.0であり、やや肯定的な評価であった。本科目の成果を1年後期および次年度に向けて検討したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門必修科目」であり、「コミュニケーションをとる力」を養うための基礎科目である。生活を営むうえで必要な知識を習得し、考え、まとめる力が必要である。講義を受け、レポートを提出することにより、関心の高さが徐々に増していく様子が感じられた。3名の教員および図書館での講義により、様々な視点で考えることが必要であるため、本科目の目的を達成するうえで内容的には妥当であったと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価として、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の項目でやや肯定的な評価が得られた。シラバスを活用した学生は、約35%であった。また、授業の計画を立てた学生は極めて少なかった。なお、本講義では、図書館の図書を必ず利用する内容を組み入れていたが、利用したと回答した学生は65%にとどまっていたことに疑問を感じている。これらの意見を参考に、1年後期以降の指導に反映させたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

専門基礎科目の入り口にあたる位置づけから、基礎的知識については概ね達成できたが、少数の学生については課題を残している面も見受けられる。評価が一定のレベル達していない場合、再提出を求め、対応した。配布物等、わかりやすいものにし、さらにきめ細やかな対応を心掛けたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	生活創造学科
氏名	谷崎 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キャリアデザイン I	1	前期	必修	はい	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	・学科における必修科目である。 ・受講動機は次の通り。必修科目である：96.2%、関心のある内容である：11.5%、単位数を確保する：19.2%、卒業後の進路、および自分の適性を考え、社会人としての意識をもつ準備を促すための授業を行った。 ・問題集、授業用に作成したスライド、配付プリント等を使用して解説を行った。 ・授業で示された手順、解説をノート等に記録し、それを予復習に利用することで、自発的学習に対応できることを想定している。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・期末の成績評価は、平均81.13点／100点であった。再試対象者は0名であった。 ・到達度自己評価の項目中、次の点が平均値3.3で最も高いスコアであった。 (2) 知識を確認、修正したり、新たに得ることができた ・到達度自己評価の項目中、次の点が平均値3.0で最も低いスコアであった。 (10) 職業選択の参考になった					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・授業の質評価の5項目についてのスコアは3.4～3.8であり、概ね意図した授業が実施できたと思う。 ・学習量の評価では、予復習、自発的学習が殆どなされていないことが示唆される。 ・予復習に関する個別具体的指示を行う、および予復習、自発的学習の効果を検証する仕組みを工夫するなどの余地があると思われる。 ・図書館等の利用は、ほぼ行われていなかった。コンピュータを利用した情報の作成・伝達に関する文献、資料を参照することを促すことも学習の深耕に資すると思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・授業の質評価の5項目についてのスコアは2.9～3.3であり、概ね意図した授業が実施できたと考える。 ・学習量の評価では、予復習、自発的学習が殆どなされていないことが示唆される。 ・予復習に関する個別具体的指示を行う、および予復習、自発的学習の効果を検証する仕組みを工夫するなどの余地があると思われる。 ・図書館等の利用は、ほぼ行われていなかった。コンピュータを利用した情報の作成・伝達に関する文献、資料を参照することを促すことも学習の深耕に資すると思われる。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	・当科目によるDP上の意義は概ね達成されていると考える。 ・予復習、自発的学習を促す工夫をする余地があると考ええる。 ・スタンダードなテキストを指定して、予復習、自発的学習に活用させてもよいかもしれない。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	生活創造学科
氏名	谷崎 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
コンピュータリテラシーⅠ	1	前期	必修	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	・受講動機は次の通り。必修科目である92.9%、資格取得に必要である14.3%、関心のある内容である17.9%、単位数を確保する28.6% ・学科における必修科目である。 ・予め、初学者の受講を想定して、テキスト、問題集の指定をした。 ・テキストの内容を理解、定着させるためには例題等による問題演習が不可欠となる科目であるため、コンピュータ操作の手順ならびに理論を解説した後、問題の演習を行う形で進めた。 ・コンピュータ操作の手順ならび理論の解説には、テキスト、授業用に作成したスライド、プリント等を用い、問題の演習には、テキストの例題、問題集を用いた。 ・授業で示された手順、解説をノート等に記録し、それを予復習に利用することで、自発的学習に対応できることを想定している。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された					達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・前期試験を経ての成績評価は、平均89点／100点であった。再試対象者は0名であった。 ・到達度自己評価の項目中、次の点が平均値3.7で最も高いスコアであった。 (2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた ・到達度自己評価の項目中、次の点が平均値2.9で最も低いスコアであった。 (8)コミュニケーション力や表現力を高めることができた					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・学科のDPの技能表現(DP5)の基礎部分を担う必修科目として開講している。 ・受講動機、学習到達度の自己評価の結果から判断して、内容的妥当性に問題はないと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、
インターネット利用」学生の意見など

- ・授業の質評価の5項目についてのスコアは2.5～3.4であり、概ね意図した授業が実施できた
と考える。
- ・学習量の評価では、予復習、自発的学習が殆どなされていないことが示唆される。
予復習に関する個別具体的指示を行う、および予復習、自発的学
習の効果を検証する仕組みを工夫するなどの余地があると思われる。
- ・図書館等の利用は、ほぼ行われていなかったが、初学者向けの科目であるので特段支障は
ない。ただし、理論が身近な場面で活用されている事例等を参照するなどを促すことも
学習の深耕に資すると思われる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

- ・当科目によるDP上の意義は概ね達成されていると考える。
- ・予復習、自発的学習を促す工夫をする余地があると考ええる。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	生活創造学科
氏名	上野 博美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
女性とマナー	1	前期	必修	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 分かりやすさ モチベーションを維持すること 実際に身に着くことが増えるように、体験型の講義を取り入れること、を重点に置いた 2. 合計2回的小テストを実施し、途中での理解度を確認した 3. 必修科目のため、学生のやる気にばらつきがあるので、体験型講義を取り入れることで、いつの間にか身につけていることを目標とした
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. 追試者が3名いたが、全員単位修得ができた これも例年とほぼ同じ状況だった 2. 秘書検定2級を受験し、合格した者が5名いた 受験していないものも多かったようだが、他の検定試験と重なり、やむなく秘書検定を10月に受験すると決めたものも多かったように聞いた 今回不合格だった者も、次回は必ず合格したいと、自由記述にも記載があるように、マナーに対する意識向上を図ることができたのだと感じた 3. 知識の確認、学ぶ意欲、必要となる技術においても、まあそうだと思うから、かなりそうだと思う、という評価ばかりあり、知らなかったことを知ることができた、できなかったことができるようになったという実感があるように思う					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1. 本科目は必修科目だが、ビジネス系に就職を希望する学生が多数のため、社会に出ていく上で、且つ女子学生として、補佐的立場に立つ場合、また社会での人間関係においても、秘書的なことを学ぶことは役立つと考えていた 学生の自由記述においても就職活動について触れているコメントが多いのは、学生が就職に必要なだと感じているからだと考える 3. 実学であるため、体験型で身に着けた技術を、実際に生かせるという点では妥当性があると考え
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	1授業の質の評価においては、4. 3以上と言う、比較的高い得点をもたらした。これは、毎回コメントカードを記入させ、その中の質問に毎回全員の前で回答すると言うことを続けたことによるのだと思う。講義で理解できていなかったことが、質問に回答することによって理解できた者もいたのだと思う。さらに、これが学生との双方向の講義になり、学生の満足度も高まったのだと考える。2. 図書館の利用は少なかったが、インターネットで調べた者もいたため、迅速さと言う点でこの結果になったのだと考える。3. 資料に書き込む等、必要なことは記述をするという習慣はできていると考える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	必修科目と言うことで、学生の意欲には当初からばらつきがある科目であることは、事前に理解をしていた。そのため、学生の身近に感じる例を挙げながら、マナーが必要な理由や場面を想像させることを絶えず続けた。そのことが、学生の意欲を増すことができたのではないかと考える。「自分なりの目標を達成した」と言う点以外は、全て4点以上の平均点となったことは、講義中心ではなく、体験型学習であったことと、学生が身近に感じる内容にしたことが理由だと思われる。自由記述においても、マナーだけではなく、同じ女性としての生き方に興味を持ってくれたのだと感じられる場面もあり、達成感を感じた。来年は募集停止の学科であるのは残念だが、最後にこのような結果をもらえたことは、大変ありがたいと感じている。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	生活創造学科
氏名	藤田 稔子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
女性と健康	1	前期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、完全な選択科目である。授業評価の受講動機を見てみると、「関心のなる内容である」が9名と受講動機として意識が高いことがうかがえる。実際、1回目の授業ガイダンスの時は受講生が少なかったが、2回目の授業では、同級生に授業内容を聴いて興味をもったから受講させてほしいとの申し出があり受講生が増加した。もちろん、単位数を確保するための理由で受講する受講生も9名いたが、授業中の態度は全員すこぶる良好であり、関心を高く持って授業に臨んでくれていたことを実感していた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目は、受講生達の専門分野というよりは、一般的な教養としての内容が濃い科目であると認識しており、受講生達も同様の感覚を有している。そのため、授業評価では「到達度自己評価」のうち、専門分野云々という項目に関しては、短絡的に本科目の評価指標とすることが難しいと考えられる。ただ、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」という項目に関しては、「わりにそうだと思う」13名(68%)「かなりそうだと思う」7名(32%)と回答されていたことは、本科目の性質上目標はある程度達成できたと評価できるのではないかと考えている。また、成績評価については、秀が16名と評価基準を満足にクリアしている受講生が多かったことを示している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	生活創造学科の新カリキュラムとしての位置づけで本科目の内容を吟味し、授業をおこなった。同時開講の女性とマナーとの関連も併せながら、授業計画を立てたことで、内容的妥当性はあったのではないかと考えている。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目が選択授業であるため、過度な負担は避けたいという気持ちがあった。そのため、課題は明確に求め、それ以外は授業時間内でこなせるように配慮した。その結果、授業評価では、「学習量の評価」で課した課題数のみの回数となっていた。ただし、「0回」と回答した受講生もいたが、ノートチェックの際、課題をちゃんとこなしていたことを確認できている。そのため、予習復習との認識がなく授業評価の回答をしたのではないかと推察する。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	今期の受講生は、高い関心を持って授業に臨んでくれていた。また、講義は、スクール形式ではなく、机を囲むように配置し、ゼミナール形式で授業を展開した。その結果、講義中の質問や意見が活発に聞かれ、受講生達の素朴な疑問を少しでも解消できたのではないだろうかと思っている。今期の授業はそのような受講生の積極的な受講態度に助けられた感がある。授業の内容は、できる限り、女性としての受講生自身の身近な問題ばかりを取り上げたため、高い関心を持続して受講してくれたと思っている。今期で本科目は終了となるが、受講生の反応を見る限り、20歳前の女子大生としては一番興味関心を持っている領域ではないだろうか、と感じた。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	生活創造学科
氏名	木村 久江

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基本の調理Ⅰ	1	前期(後期)	必修	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機として、「必修科目である」100%、「単位数を確保する」22.2%、「関心のある内容」18.5%と調理に対する関心の低さを示唆するものであった。特に生活創造学科の演習の数値においても「関心がある内容」の22.2%よりも低くに調理に対する関心のなさが窺えた。このことから、将来の職業選択として学修できるように行った。 ②前期の調理実習においては大学入学までの調理体験はあるが実習時間内に調理完成までの工程を行うには、かなりの経験値が必要である。調理の基本を身に付けるために調理を安全かつ衛生的に行う心構えや調理操作の詳しい説明を行ってきた。 ③調理用語や包丁の使い方を知らない学生が増加してきたため、視覚から理解できるように調理操作を写真にとり説明後、師範を再度行い確認させた。新たにこれらの項目に関しては全員の学生が体験し、修得できるように授業の改善を行った ④包丁の使い方を修得後、前期の前半と後半に包丁の実技テストを行い、包丁の使い方が上達しているかを確認させている。これらの確認は中学、高校時代に家庭で包丁を使って果物の皮をむくなどの操作を復習した経験が少なく、上達するまでに時間がかかることから実習授業だけではなく日常的に調理に関心を持つように進めている。 ⑤週に1回の実習授業のため、実習前には、図書館で調理用語などについて予習をし、実習後には、復習の意識を高める為に自宅でみそ汁作りなどを課題とし、調理が日常的な行為であることを体得させることに努力をしている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①調理実習授業である為、定期試験ではなくレポート等を課題としている為、学生全員が15回のレポートを提出した。最終的な成績としては、平均値は85点で全員が標準的レベル達したが、理想的レベル(概ね90点以上として)に達しているものは12名であった。 ②学生による授業評価アンケートから、知識理解(DP1)に関しては、学科の平均値3.9に対し本実習は平均値4.2となり、調理の知識を確認、修正したり新たに得ることができ、それぞれの学生の自信に繋がったと考えられる。また、意欲関心(DP3)に関しても、学科の平均値3.4に対し本実習は平均値3.9となり、調理の基本の学びを深めたいと意欲がでてきたことが窺える。そして、技能表現(DP5)に関しては、学科の平均値3.4に対し本実習は平均値4.0となり、調理技術やおもてなしなどの表現力が身につく、学生の自信に繋がったと考えられる。さらに自分なりの目標達成も学科の平均値よりも高く、全てにおいて学生の自信に繋がりが達成できたと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の基礎であり、後期に行う調理実習の「基本の調理Ⅱ」とし繋ぐための重要な位置づけとして必修科目である。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 到達度自己評価から、学ぼうとする専門分野で必要となる技術の習得ができたと思う。また、これを用いて創意工夫し、自分なりの表現力を高められたとする評価が多かった。内容的には妥当と考える。 ③まとめ 以上から、内容的には妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質の評価では、学科平均値3.6～3.3に対し、本実習ではいずれも平均点で、4.0～3.9となり大きな課題はないと思われる。調理実習授業の為、実習中は机間巡視を行い各班の理解度を把握したり、質問や手助けが必要な学生に適切な調理操作を説明し、コミュニケーションを図ってきた。さらに、学生同士がコミュニケーションを取りやすくするために調理の班編成にも注視した。今後も安全かつ衛生面に留意し、授業を進めていきたい。 ②学術データベースの検索は、利用者が少なかった。しかし、図書館の利用については、毎回の課題レポートに図書館の図書で調べることを課題にしている為、利用者が50パーセント以上に達している。さらに今後も図書活用者を拡大したい。 ③学習量の評価における、個別コメントにおいても、家庭で実際に料理を作ったとの記述が多数見受けられ、「食における基礎的な生活技術を身につけ健全でより良く生きる力を養い、それを自分の創意工夫を加えて実践できている学生もあり、授業の進め方も概ね妥当と考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①本授業は、必修科目であり、生活創造学科の食における、知識の基礎となる位置づけである。 授業の達成度自己評価においても、学科平均値よりも本実習の平均値が高く期待した修得ができたと考ええる。 ②実習などを通じてDPにある食における基礎的な生活技術を身につけ生活を充実させ、今後の自らの生活に創意工夫を加えて活用することについても概ね達成できた。（授業以外の家庭での料理の実践など）また、健全でより良く生きる力を養うための食の素材をデザインする力についても自由記述として12名の学生がテーブルマナーの体験に学習効果があると記述しており、自信につながったと考えられる。さらに、マナー体験後に調理実習で再確認ができるように今後も指導を行っていきたい。 ③今後の改善点として、授業以外でも、学生の食に関する質問を受ける場を増やし工夫していきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	生活創造学科
氏名	木村 久江

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
調理学	1	前期	必修	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①1年生前期の「調理学」は必修科目であり、特にフードコーディネーター資格取得を目指す学生には重要であるが、全員が資格取得を目指すわけではなく、今回の受講動機を見ても「必須科目である」が93%と多く、「資格取得に必要である」と考えている学生は6.9%と少なかった。しかし、「関心のある内容である」17%、「単位を確保する」24%とに分かれた。フードコーディネーター受験希望者のための授業展開を行うと、受験しない学生の関心を引きつけることが出来なくなること留意して、全ての学生に理解しやすく、関心が持てるように行った。 ②調理を行う上で必要な調理の基礎理論を修得し、実際に社会に貢献できるように食事作法を身につけ、食生活の場で実践してきた。 ③全員に関心を持たせる為に食に関する統計調査を行い、データを分析し図表に表す調査・表現能力を学修させ発表を計画した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①最終的な成績の平均値は85点であり、再試対象は0名であった。学生の90%が標準レベルに達したが理想レベル(概ね90点以上として試験を作成)に達したのは11名の36%であった。 ②学生による授業アンケートから知識理解(DP1)に関しては、学科平均値3.8に対し、本講義平均値は3.9となり「調理学」の基礎知識が確認、修正したり新たに得ることができたと考えられる。また、技能表現(DP5)に関して学科平均値3.4に対し、本講義平均値は3.6となり「調理学」の食に関する統計調査データを分析し図表に表す調査・表現能力が身につく、学生の自信に繋がったと考えられる。 ③学習量の評価として自由記述に「授業のまとめをノートに書いた」や「本で調べた」などの記載があり、記録や自発学習の努力の跡が窺えた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」であり、1年生の前期に行う「調理学」の調理を行う上で必要な基礎理論の生きる力を修得する為の重要な位置づけとして科目である。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 到達度自己評価から、学ぼうとする専門分野で必要となる技術の修得ができたと考えられる。また、食に関する統計調査を行い、データを分析し図表に表す調査・表現能力を学修させ創意工夫し、自分なりの表現力を高められたとする評価が多かった。内容的には妥当と考える。 ③まとめ 以上から、内容的には妥当であったと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質の評価では、学科平均値が3.6～3.4に対し、本講義ではいずれも平均値で、3.9～3.8と大きな課題はないと思われる。しかし、授業準備の欄で指摘したようにフードコーディネーター試験を受験しない学生も受講するなど受講動機が違うため、それぞれの学生の理解度を把握したり、質問や手助けが必要な学生に適切な説明をしてきた。今後も学生とのコミュニケーションを図り、授業を進めていきたい。 ②図書館の図書で課題を調べる為、図書館利用者が66%であった。今後はさらに図書活用者を拡大したい。 ③学習量の評価における、個別コメントにおいても、「新たな知識をたくさん得る事ができた」の記述が見受けられ、「調理学における基礎的な理論や生活技術」を得てそれを自分の創意を加えて実践できている学生もあり、授業の進め方も概ね妥当と考える。 ④担当教員への意見として、「テーブルマナーの基本知識の授業がみについた。」「食品について学べてよかった」「新たな知識をたくさん得る事ができた。」「お箸の持ち方がきれいになった。」などの13項目の良い自己評価が書かれていた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①「調理学」は、必修科目であるがフードコーディネーター試験を受験する学生にとっては重要科目である。また、食におけるフードコーディネーター試験の受験者が合格後、社会に貢献できるように調理の基礎理論や実際に食生活の場で実践できるような基礎となる位置づけである。授業の達成度自己評価においても、学科平均値は3.8～3.4となり、本講義は概ね平均値3.9～3.6であり、期待した修得ができたと考えられる。 ②DPにある、食に関する基礎的な生活技術を修得し、今後のみずからの生活に創意を加えて活用することについても概ね達成できた。（授業以外の家庭での料理の実践など） ③今後の改善点として、資格取得しない学生にも理解しやすい内容で、授業以外でも、学生の食に関する質問を受ける場を増やし工夫していきたい。 ④食に関する知識を分かりやすく修得するために、実物などの食品を見ながら理解をさせる必要がある。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	生活創造学科
氏名	加来 卯子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
服飾基礎Ⅰ	1	前期(後期)	必修	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1年前期の必修科目（実習）である。 本講では、被服製作（染めること、縫うこと）の基礎を習得することにより、ものをつくることの面白さ、大切さを学ばせることを目的とする。 小中高の授業および家庭生活において、被服製作の経験が少ないことが予想されるため、各回、プリントおよびサンプル（段階標本）等を準備した。 全体的な説明を行った後、少人数のグループ別に実習指導を行った。教育支援職員とともに机間巡視を行い、質問に対応するとともに、常に学生個々人の状況を把握した。また、学生一人ひとりと向き合うことで、各回の目標を達成できるよう指導した。 授業の最後には、毎時、振り返りを行い、次回までに進めておくべき課題を確認した。 次回までの課題を実施するにあたり、時間外の指導を希望する学生には、個別に対応した。 個別指導により、最終的に全員が課題を提出し、達成感を得ることにより、「服飾基礎Ⅱ」（後期）へとつながるよう努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者は、全員が標準的レベルに達し、理想的レベル（概ね80点以上）に達した学生も多くみられた。知識理解に関しては、個人差が生じているが、個別対応により、やや達成されたと言える。意欲関心に関しては、初年次の実習であるためか、ほとんどの学生が意欲的に取り組む姿勢をみせていた。製作作品を学内展示することにより、その姿勢はより強化された。技能表現については、日を追うごとに上達し、学生のレポート等から作品を完成できたことへの達成感が感じられた。 学生による授業評価においては、レポート・提出物等の評価基準が明らかであった、期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった、とする学生が多く、実習であるため目標設定が比較的容易であったことが伺える。一方で、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなどの機会が作られていると思う学生は多くなかった。今後、互いの作品を鑑賞しあう時間を設定する必要性が感じられた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門必修科目」であり、1年前期および2年次に学びを進めるための基礎科目である。 生活を営むうえで必要な知識および技術に関する内容も含まれているが、家庭あるいは高校までの家庭科の授業における経験が極めて少ないため、授業を開始直後は関心が薄い面も見受けられる。 しかし、授業回数を重ねていく毎に実習への関心の高さや自ら考えようとする力が増していくため、授業内容は妥当であったと考える。 今後も、個別の対応を進めながら、丁寧な指導を心掛けたい。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の意見として、今まで製作に対し馴染みがなかったが楽しんで取り組むことが出来た、ミシンの使い方がよく分かった、改めて楽しいと思った、縫うことが好きだということが分かった、など、授業による気付きが見受けられる。 一方で、若干長めに授業を行ったこともあったため、授業を時間内に終わってほしいとの要望もあった。 今後、授業は定刻で終了し、その後、学生の対応を考えていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	専門基礎科目の入り口にあたる位置づけから、基礎的知識および技能については概ね達成できたが、少数の学生については課題を残している面も見受けられる。 実習の性格上、学生とじっくり向き合うことが大切であるため、時間配分も含め、今後、検討していく必要があると思われる。 配布物、提示物等を、わかりやすいものにし、個々に学べる体制をつくることの重要性も感じられ、後の実習に向けて改善していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	生活創造学科
氏名	中井 明美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
服飾基礎 I	1	前期(後期)	必修	はい	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 今まで中学・高校で家庭科の被服実習をほとんどしていない学生が多いことを考えて、少しでも実習を通して被服製作技術を身につけさせることを期待した。 ② 今年度は前期だけでなく後期にも実習を取り入れて、学生の製作能力を向上させることを目標にした。 ③ 大作でなく2、3時間で仕上がるような作品を作るにより、基本的な能力を身に付けさせる。全体を半分に分け、教員を交代して少人数での指導により、学生に自信、意欲を持たせて作品を製作・完成させることにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	この科目は2人の合計で点数を付けているので、あくまでも中井担当分のみ点数を記載する。 最終的な平均値は40.7点(50点満点)であり、再試験当者は0名であった。ただ作品の仕上がらない学生に対しては、補講日をあて、作品を完成させた。全員が作品を仕上げ、最終目標は達成できたが、作品の出来具合は初めての作品である学生も多かったので、仕上がりが内容は点数には反映していない。重視したのは作品作成時の態度、説明をきちんと聞けて間違いなく出来てくかであった。今年度で学科が終わるので、次年度への検討事項はない。 全体を通して、知識の理解、技能表現は達成されたと考え、意欲関心も高かったと評価した。 学生による授業評価において課題以外の学習に取り組む姿勢が少ない理由として、実習時間が135分で少なく、家でする宿題になってしまっているため授業の作品で余裕がなかったと考える。 担当教員の方で情報を十分に行っているため、図書館に行く必要性はなかったと考えるが、実習で行う以外の作品などの情報を得るためにも図書館を利用するように仕向けるべきだったと反省している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門基礎科目」であり、専門応用科目へと結び付けていく能力を身に付けることができ、学生も一定の成績を収めているので、内容的には妥当であったと考える。 前半と後半のクラスを比較すると、教える方にも経験が生かされたこともあり、後半の方が授業がスムーズに進み、教え方を工夫し、時間内に全員が終了することができた。 全体として、内容的には作品の数も多くなく、妥当であったと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価で「授業中に自分の意見をまとめる…」などの項目が低かったが、この科目は与えられた課題をすることが第一であるので、自分の意見を言うことはない。しかし中身に関しては「柄、色など」は自分の好みで決めるので、そこでは自分の考えを出せるはずなので、学生の評価とは少し食い違う気がする。説明の仕方にもっと工夫すべきであったのかと反省をしている。 学生の意見に「することがわからない」というのがあったが、学生に余裕がなく（時間、能力を含めて）課題を作成する以上のことが、できなかったと考える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	基礎知識として実習を通し、身に付けることは今後の生活にも生かせ、学生がもっと真剣に取り組むとさらに成果は上がると考える。手を動かすことで、何度も失敗を繰り返し、覚えていくこともあるので、今回はこれで終わりであっても将来きっと役に立つ科目であったと考える。今年で終わる科目であるのが非常に残念である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	生活創造学科
氏名	藤田 理恵子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
カラーコーディネート論	1	前期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業を実施するにあたり最も重視していることは、色彩の物理科学的根拠を理解したうえで今後の生活の中で色彩を応用、活用できるようになるという事である。私たちの暮らしにおいて色は周囲に氾濫しており身近なものであるにもかかわらず、正しい扱い方をしないために引き起こされる様々な弊害があるのも現実である。 「カラーコーディネート論」という科目名のイメージからか、受講動機を見ると「単位取得」に並び「関心のある内容である」が63.2%に及んでいる。これは所謂インテリアやファッション関連への興味へ繋がるものと類推される。 但し色彩を正しく活用するためには物理科学的な基礎的考察が必要不可欠である。しかし資格取得を目指すわけでもないので授業では平易な解説や身近な事例を挙げ、理解へと導いている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績は課題の精度によるものの合計を平均化したものであるが、平均値は83点と高レベルに達している。しかし全員ではなく長期欠席者一名、標準レベルに達しない者が一名含まれていた。授業評価アンケートの知識・理解では知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来たの項目が講義、演習ともに3.8、3.9ポイントであることを鑑みると、全体を通して目標は達成されたと判断できると思われる。 思考・判断では講義、演習ともに3.4ポイントとなっている。これは課題の検討という部分で相互に意見交換をし考える時間をとれなかったことを示している。これについては授業の時間配分の問題として次年度にむけて検討したい。 あらかじめ授業の計画をたてたかどうかについて、一名を除く全員が立てなかったと答えており、図書館などの情報を殆どが利用していないと答えている。これは本科目について行き当たりばったりに授業を受けていることを示している。専門的な知識を身に付け将来の仕事に生かすというよりは現在の関心事として捉えていることの表れであると思う。興味関心のあることなので、授業の記録についても約7割の学生が自分なりのノートを作成したと答えている。 課題についての提出期限や精度にばらつきがあったので、課題テーマのポイントを明確に伝えた確かな指示を出すように改善したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は一年前期の選択科目である。本来は資格試験を受けることも出来、カラーコーディネーターという専門職として捉えることも可能であるが、本科目では色彩を理解し、生活の中で応用が出来るようになるという程度に留めている。このテーマに沿ってカリキュラムを構成し学生も一定以上の成績を収めていることから内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 自発的学習が演習、講義とも前年よりも増加している。受講動機として最も多いのが関心のある内容だというものであったことからもうなずける。また学んだことを積極的にファッションのカラーコーディネートに取り入れるようになったという学生の意見も寄せられている。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題ないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、殆どの項目は納得のいくものであったが、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会がつけられていた」の平均が2.7と低かった。授業の中で学生同士が「話し合う」という機会を作っていなかった。自分の意見を言うだけでなく、相互に話し合うという時間が必要なのであれば時間を工夫して作っていききたい。 座学の後は、毎回その日の授業の内容に即した課題を与え、内容が定着するように工夫している。 学生の意見に「先生とコミュニケーションが取れて楽しくて面白かった」「すごく楽しかった」などの好意的なものがいくつかあった。 学生が課題に取り組む時間を使って、授業の中では伝えられなかった色彩にまつわる話などを雑談的にしているのでこれは今後も続けたいと思う。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は選択であり「カラーコーディネート論」という科目名の通り、色彩のコーディネートについての方法論を身に付けることが目的である。基礎的知識の形成については概ね達成出来た。応用については課題を残した。これは授業の質評価での反省点でもある、自分の意見を纏める、話し合う、発表するなどの時間を持つことで改善され则认为る。 授業過程を振り返ると、配色パネルは効果的に使うことが出来た点は評価できるが、掛図や模型などをもう少し有効に使用出来るよう改善を図りたい。 また課題の配布物のボリュームが毎回均一でない為に作業の時間配分がうまくいかない学生が見受けられた。 以上から、毎回の授業のポイントを整理し、それを学生に伝えることで考える時間を増やし、課題にスムーズに取り組めるように改善していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	生活創造学科
氏名	齋藤 礼子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
デザイン論	1	前期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	入学したての学生のほとんどが制服を卒業し、私服で通学するにあたり、日々の服装生活になるべく役に立つ内容にしたいと以前から考えている。この講義は半期しかなく、しかも選択であり、必修ではないが受講生11人のうち9人がそもそも関心のある内容ということでその期待に応えるべく、私個人の経験や実践、失敗談などを交え講義の時間を増やした。また、実習の時間を設け、具体的に作品を制作することを通して、色や形に対する感覚、知識、デザインとは何かについて考えを深めさせた。また、時々、なぜその服装で登校したのか文章にまとめさせ、実用と装飾美の関係を含め、服装とは個人の社会へのメッセージであることを服装史や我が国の洋服の歴史の裏付けとともに考察させた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの結果によると提出物等の評価基準は解答者10人中、5人がまあまあ、3人がわりと、2人がかなり明らかと答えている。また学習の範囲や課題、また説明は10人中5人がまあまあ、3人がわりと、かなりわかりやすいと答え、実習の作品も比較的レベルの高い作品ができたことから服飾デザインの意義、構成原理の知識を理解し、日常生活においてもそれなりに生かすことができると期待される。また、人体のプロポーシオンや洋服の基本型・種別についても10人全員が提出物・作品を見ると、習得することができたと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①日本の洋服の歴史を踏まえた上での服飾デザインの学習は現代では、もはや洋服を全く着ない人は皆無に近い状況であることを考えると、学科のCPの1～5の方針に程度の差こそあれ、全部つながることであり、内容的には妥当であると思われる。 ②昨年までは講義ではなく実習が主たるものであったので、内容、時間ともに大幅な変更が余儀なくされたが結果的にはより知識を深めることもできたので内容的には妥当であると思われる。 ③受講動機は90%が関心のある内容であり、学生の到達度自己評価もほとんどの項目がある程度の満足度を得られている。 ④以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会がもうけられていたか」という問いに10人中「かなりそうだ」と答えた学生が2人「まあまあそうだ」と答えた学生が5人いた反面、3人が「少しそうではない」と答えた学生がいたのでやり方を工夫し、もっと全員が発言できるようにしようと思う。学生の意見では好意的な意見をもらえ、これを励みにこれからも研鑽を積んでいきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目では狭義の服飾デザインを重点的に解説し、知識とともに実習もふくめたので基礎的知識の形成や関心意欲、また技能・表現の分野では概ね満足のできるレベルまで達成できた。可能であれば、技能・表現の力を身につけるには物理的時間や経験が多く必要とされるため、その点も考慮していきたい。
------------------------------	---